

福岡大学病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム

プログラムの名称

福岡大学病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム

プログラムの目的

耳鼻咽喉科医師としての人格の涵養に努め、耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の全ての領域において幅広い臨床能力を習得し、「国民に安全で安心な標準的医療を提供できる」専門医を育成することを目標とする。

プログラム指導医と専門領域

●基幹研修施設 福岡大学病院耳鼻咽喉科

プログラム責任者：坂田 俊文（診療部長）（耳、鼻・副鼻腔）

指導管理責任者：坂田 俊文（診療部長）（耳、鼻・副鼻腔）

指導医：末田 尚之（副診療部長）（鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

力丸文秀（病棟医長）（鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

佐藤 晋（医局長）（鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

専門医：黒木 圭二（副病棟医長）（鼻・副鼻腔、頭頸部）

西 龍郎（外来医長）（耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭）

●連携研修施設

福岡大学筑紫病院

指導管理責任者：三橋 泰仁（耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

指導医：三橋 泰仁（耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

専門医：坂田 健太郎（鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

福岡歯科大学医科歯科総合病院

指導管理責任者：山野 貴史（耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭）

指導医：山野 貴史（耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭）

福岡徳州会病院

指導管理責任者：田畑 貴久（耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

指導医：田畑 貴久（耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

指導医：村上 大輔（耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

九州がんセンター

指導管理責任者：藤 賢史（鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

指導医：益田 宗幸（鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

藤 賢史（鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

山内 盛泰（鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

本郷 貴大（鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

九州医療センター

指導管理責任者：中島 寅彦（鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

指導医：中島 寅彦（鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

指導医：瓜生 英興（鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部）

浜の町病院

指導管理責任者：田浦 政彦（口腔咽喉頭、頭頸部）

指導医：田浦 政彦（口腔咽喉頭、頭頸部）

指導医：土橋 奈々（耳、鼻・副鼻腔）

募集定員：4名

プログラムの概要

基幹研修施設である福岡大学病院と福岡大学筑紫病院、福岡歯科大学医科歯科総合病院、福岡徳州会病院、九州がんセンター、九州医療センター、浜の町病院の6連携研修施設において、それぞれの特徴を生かした耳鼻咽喉科研修を行い、日耳鼻研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験する。基幹研修施設には最低1年在籍し、残りの研修期間における研修施設は基幹研修施設と6連携研修施設より、プログラム責任者が研修内容を鑑み、適宜、選択する。

また、プログラムに定められた研修の評価は施設ごとに専攻医、指導医、プログラム責任者で実施し、4年間の研修修了時にはすべての領域の研修到達目標が達成する。さらに、4年間の研修中、認定されている学会発表を最低3回は行う。また、筆頭著者としての論文執筆・公表を学術雑誌に最低1編は行う。研修の評価や経験症例は日耳鼻が定めた方法で登録する。

研修カリキュラム

●研修施設：福岡大学病院

GI0（一般目標）：耳鼻咽喉科医としての基本的臨床能力および姿勢を身につけるために、代表的な疾患や主要症候に適切に対処できるための知識、技能、態度および臨床問題解決法の習得と人間性の向上に努める。

SB0s（行動目標）

基本姿勢・態度

研修到達目標：#1-18（*番号については別紙「研修到達目標一覧」参照のこと）

基本的知識

研修到達目標（耳）：#19-25

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#41-46

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#62-72

研修到達目標（頭頸部）：#86-91

基本的診断法

研修到達目標（耳）：#26-33

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#47-55

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#73-77

研修到達目標（頭頸部）：#92-97

経験すべき治療など

研修到達目標（耳）：#34-40

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#56-61

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#78-85

研修到達目標（頭頸部）：#98-107

口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術を術者として5例以上行う。

鼓膜チューブ挿入術を術者として5例以上経験する

喉頭微細手術を術者として5例以上経験する

内視鏡下鼻副鼻腔手術を術者として10例以上経験する

気管切開術を術者として3例以上経験する

良性腫瘍摘出術を術者として5例以上経験する

耳科手術を助手として20例以上経験する

鼻科手術を助手として20例以上経験する

口腔・咽頭・喉頭手術を助手として40例以上経験する

頭頸部腫瘍手術を助手として30例以上経験する

経験すべき検査

聴覚検査：純音聴力検査 10 例以上、語音聴力検査 10 例以上、ティンパノメトリー10 例以上、自記オージオメトリー10 例以上、耳音響放射検査 10 例以上

平衡機能検査：頭位および頭位変換眼振検査 10 例以上、温度眼振検査 10 例以上、視運動性眼振検査と視標追跡検査 10 例以上、重心動揺検査 10 例

耳管機能検査 5 例以上

鼻アレルギー検査（鼻汁細胞診、皮膚テスト、誘発テスト）5 例以上

鼻咽腔・喉頭内視鏡検査 10 例以上、

嗅覚検査（静脈性嗅覚検査、基準嗅覚検査）3 例以上

鼻腔通気度検査 3 例以上

味覚検査（電気味覚検査、ろ紙ディスク法）3 例以上

研修内容

専攻医は病棟の主治医として、入院患者の管理を行う。

耳・平衡カンファレンス（火曜日、土曜日 8:00-9:00）

耳の解剖・生理、検査を理解し、基本的な疾患の診断、治療ができる。

側頭骨ラボ（月一回 19:00-21:30）

側頭骨の wet bone を用い、顕微鏡下に削開し、側頭骨解剖の理解を深め、側頭骨手術の基本手技を学ぶ。

嚥下・音声カンファレンス（月一回 18:00-19:30）

手術ビデオカンファレンス（木曜日 8:00-9:00）

入院予定患者のカンファレンス（火曜日 15:00-15:45）

症例カンファレンス（火曜日 15:45-16:30）

腫瘍・放射線治療カンファレンス（火曜日 16:30-17:15）

病理カンファレンス（火曜日 17:15-18:00）

総回診（火曜日 14:00-15:00）

抄読会（火曜日 18:00-18:30）

専門外来については難聴・補聴器、アレルギー、頭頸部を3カ月交代でローターとする。
院内で行われている、医療倫理、医療安全、感染対策の講習会は必ず受講する。

●研修施設：福岡大学筑紫病院

GIO（一般目標）：耳鼻咽喉科医としての基本的臨床能力および姿勢を身につけるために、代表的な疾患や主要症候に適切に対処できるための知識、技能、態度および臨床問題解決法の習得と人間性の向上に努める。

SB0s（行動目標）

基本姿勢・態度

研修到達目標：#1-21

基本的知識

研修到達目標（耳）：#19-33、#35-40

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#41-64

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#65-88

研修到達目標（頭頸部）：#86-103

基本的診断法

研修到達目標（耳）：#29-33、#35-36

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#50-58

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#76-80

研修到達目標（頭頸部）：#95-100

経験すべき治療など

研修到達目標（耳）：#37-40

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#59-64

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#81-88

研修到達目標（頭頸部）：#101-103

口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術を術者として5例以上行う。

鼓膜チューブ挿入術を術者として5例以上経験する

喉頭微細手術を術者として5例以上経験する

内視鏡下鼻副鼻腔手術を術者として10例以上経験する

気管切開術を術者として3例以上経験する

良性腫瘍摘出術を術者として5例以上経験する

経験すべき検査

聴覚検査：純音聴力検査 10 例以上、語音聴力検査 10 例以上、ティンパノメトリー10 例以上、自記オージオメトリー10 例以上、耳音響放射検査 10 例以上

平衡機能検査：頭位および頭位変換眼振検査 10 例以上、温度眼振検査 10 例以上、視運動性眼振検査と視標追跡検査 10 例以上、重心動揺検査 10 例

耳管機能検査 5 例以上

鼻アレルギー検査（鼻汁細胞診、皮膚テスト、誘発テスト）5 例以上

鼻咽腔・喉頭内視鏡検査 10 例以上、

嗅覚検査（静脈性嗅覚検査、基準嗅覚検査）3 例以上

鼻腔通気度検査 3 例以上

味覚検査（電気味覚検査、ろ紙ディスク法）3 例以上

研修内容

専攻医は病棟の主治医として、入院患者の管理を行う。

側頭骨ラボ（福岡大学病院に出向、月一回 19:00-21:30）

側頭骨の wet bone を用い、顕微鏡下に削開し、側頭骨解剖の理解を深め、側頭骨手術の基本手技を学ぶ。

嚙下・音声カンファレンス（福岡大学病院に出向、月一回 18:00-19:30）

症例カンファレンス（金曜日 16:30-19:00）

総回診（木曜日 14:00-15:00）

抄読会（福岡大学病院に出向、火曜日 18:00-18:30）

院内で行われている、医療倫理、医療安全、感染対策の講習会は必ず受講する。

●研修施設：福岡歯科大学医科歯科総合病院

GIO（一般目標）：耳鼻咽喉科医としての基本的臨床能力および姿勢を身につけるために、代表的な疾患や主要症候に適切に対処できるための知識、技能、態度および臨床問題解決法の習得と人間性の向上に努める。

SB0s（行動目標）

基本姿勢・態度

研修到達目標：#1-18

基本的知識

研修到達目標（耳）：#19-25

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#41-46

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#62-72

研修到達目標（頭頸部）：#86-91

基本的診断法

研修到達目標（耳）：#26-33

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#47-55

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#73-77

研修到達目標（頭頸部）：#92-97

経験すべき治療など

研修到達目標（耳）：#34-40

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#56-61

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#78-85

研修到達目標（頭頸部）：#98-107

口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術を術者として5例以上行う。

鼓膜チューブ挿入術を術者として5例以上経験する

内視鏡下鼻副鼻腔手術を術者として5例以上経験する

良性腫瘍摘出術を術者として3例以上経験する

経験すべき検査

聴覚検査：純音聴力検査 20 例以上、ティンパノメトリー 20 例以上

平衡機能検査：頭位および頭位変換眼振検査 20 例以上、温度眼振検査 20 例以上、視運動性眼振検査と視標追跡検査 20 例以上、重心動揺検査 20 例

鼻アレルギー検査（鼻汁細胞診、皮膚テスト、誘発テスト）5 例以上

鼻咽腔・喉頭内視鏡検査 10 例以上、

研修内容

側頭骨ラボ（福岡大学病院に出向、月一回 19:00-21:30）

側頭骨の wet bone を用い、顕微鏡下に削開し、側頭骨解剖の理解を深め、側頭骨手術の基本手技を学ぶ。

嚙下・音声カンファレンス（福岡大学病院に出向、月一回 18:00-19:30）

症例カンファレンス（金曜日 16:30-19:00）

総回診（木曜日 14:00-15:00）

抄読会（福岡大学病院に出向、火曜日 18:00-18:30）

院内で行われている、医療倫理、医療安全、感染対策の講習会は必ず受講する。

●研修施設：福岡徳州会病院

GIO（一般目標）：耳鼻咽喉科医としての基本的臨床能力および姿勢を身につけるために、代表的な疾患や主要症候に適切に対処できるための知識、技能、態度および臨床問題解決法の習得と人間性の向上に努める。地域救急中核病院であるので、救急医療について学ぶ。

SB0s（行動目標）

基本姿勢・態度

研修到達目標：#1-18

基本的知識

- 研修到達目標（耳）：#19-25
- 研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#41-46
- 研修到達目標（口腔咽喉頭）：#62-72
- 研修到達目標（頭頸部）：#86-91

基本的診断法

- 研修到達目標（耳）：#26-33
- 研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#47-55
- 研修到達目標（口腔咽喉頭）：#73-77
- 研修到達目標（頭頸部）：#92-97

経験すべき治療など

- 研修到達目標（耳）：#34-40
- 研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#56-61
- 研修到達目標（口腔咽喉頭）：#78-85
- 研修到達目標（頭頸部）：#98-107
- 口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術を術者として5例以上行う。
- 鼓膜チューブ挿入術を術者として5例以上経験する
- 内視鏡下鼻副鼻腔手術を術者として5例以上経験する
- 良性腫瘍摘出術を術者として3例以上経験する

経験すべき検査

- 聴覚検査：純音聴力検査 10 例以上、ティンパノメトリー 10 例以上
- 平衡機能検査：頭位および頭位変換眼振検査 10 例以上、温度眼振検査 10 例以上、鼻アレルギー検査（鼻汁細胞診、皮膚テスト、誘発テスト） 5 例以上
- 鼻咽腔・喉頭内視鏡検査 10 例以上、

研修内容

側頭骨ラボ（福岡大学病院に出向、月一回 19:00-21:30）

側頭骨の wet bone を用い、顕微鏡下に削開し、側頭骨解剖の理解を深め、側頭骨手術の基本手技を学ぶ。

嚙下・音声カンファレンス（福岡大学病院に出向、月一回 18:00-19:30）

症例カンファレンス（金曜日 16:30-19:00）

抄読会（福岡大学病院に出向、火曜日 18:00-18:30）

院内で行われている、医療倫理、医療安全、感染対策の講習会は必ず受講する。

●研修施設：九州がんセンター

GIO（一般目標）：頭頸部外科医としての頭頸部がんの基本的臨床能力および姿勢を身につける。問題解決法の習得と人間性の向上に努める。

SBOs（行動目標）

基本姿勢・態度

研修到達目標：#1-18

基本的知識

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#41-43、#46

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#62-66、#70-72

研修到達目標（頭頸部）：#86-91

基本的診断法

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#48、#51、#54

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#74、#76-77

研修到達目標（頭頸部）：#92-97

経験すべき治療など

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#58

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#81-85

研修到達目標（頭頸部）：#98-107

良性腫瘍摘出術を術者として5例以上経験する

研修内容

嚙下・音声カンファレンス（福岡大学病院に出向、月一回 18：00-19：30）

症例カンファレンス（木曜日 15:00-17:00）

腫瘍・放射線治療カンファレンス（火曜日 16:00-17:30）

総回診（木曜日 14:00-15:00）

院内で行われている、医療倫理、医療安全、感染対策の講習会は必ず受講する。

専攻医は病棟の主治医として、入院患者の管理を行う。

研修到達目標と評価

研修の評価については、プログラム責任者、指導管理責任者（関連研修施設）、指導医、専攻医、専門研修管理委員会（基幹研修施設）が行う。

専攻医は指導医および研修プログラムの評価を行い、4：とても良い、3：良い、2：普通、1：これでは困る、0：やっていない、評価できない、わからない、で評価する。

指導医は専攻医の実績を研修到達目標にてらして、4：とても良い、3：良い、2：普通、1：これでは困る、0：やっていない、評価できない、わからない

研修管理委員会（プログラム責任者と指導管理責任者）で内部評価を行う。

横断的な専門研修管理委員会での内部評価を行う。

●研修施設：九州医療センター

GIO（一般目標）：耳鼻咽喉科医としての基本的臨床能力および姿勢を身につけるために、代表的な疾患や主要症候に適切に対処できるための知識、技能、態度および臨床問題解決法の習得と人間性の向上に努める。

SBOs（行動目標）

基本姿勢・態度

研修到達目標：#1-18

基本的知識

研修到達目標（耳）：#19-25

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#41-46

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#62-72

研修到達目標（頭頸部）：#86-90

基本的診断法

研修到達目標（耳）：#26-33

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#47-55

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#73-77

研修到達目標（頭頸部）：#92-96

経験すべき治療など

研修到達目標（耳）：#34-40

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#56-61

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#78-85

研修到達目標（頭頸部）：#99-100

口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術を術者として5例以上行う。

鼓膜チューブ挿入術を術者として5例以上経験する

喉頭微細手術を術者として5例以上経験する

内視鏡下鼻副鼻腔手術を術者として5例以上経験する

気管切開術を術者として3例以上経験する

良性腫瘍摘出術を術者として5例以上経験する

経験すべき検査

聴覚検査：純音聴力検査 10 例以上、語音聴力検査 10 例以上、ティンパノメトリー10 例以上、自記オージオメトリー10 例以上、耳音響放射検査 10 例以上

平衡機能検査：頭位および頭位変換眼振検査 10 例以上、温度眼振検査 10 例以上、視運動性眼振検査と視標追跡検査 10 例以上、重心動揺検査 10 例

耳管機能検査 5 例以上

鼻アレルギー検査（鼻汁細胞診、皮膚テスト、誘発テスト）5 例以上

鼻咽腔・喉頭内視鏡検査 10 例以上、
嗅覚検査（静脈性嗅覚検査）3 例以上
鼻腔通気度検査 3 例以上
味覚検査（電気味覚検査、ろ紙ディスク法）3 例以上

研修内容

専攻医は病棟の主治医として、入院患者の管理を行う。

側頭骨ラボ（福岡大学病院に出向、月一回 19:00-21:30）

側頭骨の wet bone を用い、顕微鏡下に削開し、側頭骨解剖の理解を深め、側頭骨手術の基本手技を学ぶ。

嚙下・音声カンファレンス（福岡大学病院に出向、月一回 18:00-19:30）

症例カンファレンス（金曜日 16:30-19:00）

抄読会（福岡大学病院に出向、火曜日 18:00-18:30）

院内で行われている、医療倫理、医療安全、感染対策の講習会は必ず受講する。

●研修施設：国家公務員共済組合連合会 浜の町病院

GI0（一般目標）：耳鼻咽喉科医としての基本的臨床能力および姿勢を身につけるために、代表的な疾患や主要症候に適切に対処できるための知識、技能、態度および臨床問題解決法の習得と人間性の向上に努める。

SB0s（行動目標）

基本姿勢・態度

研修到達目標：#1-21

基本的知識

研修到達目標（耳）：#19-33、#35-40

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#41-64

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#65-88

研修到達目標（頭頸部）：#86-103

基本的診断法

研修到達目標（耳）：#29-33、#35-36

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#50-58

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#76-80

研修到達目標（頭頸部）：#95-100

経験すべき治療など

研修到達目標（耳）：#37-40

研修到達目標（鼻・副鼻腔）：#59-64

研修到達目標（口腔咽喉頭）：#81-88

研修到達目標（頭頸部）：#101-110

口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術を術者として10例以上行う。

鼓膜チューブ挿入術を術者として5例以上経験する

喉頭微細手術を術者として5例以上経験する

内視鏡下鼻副鼻腔手術を術者として20例以上経験する

気管切開術を術者として5例以上経験する

良性腫瘍摘出術を術者として10例以上経験する

頭頸部癌の術後管理を10例以上経験する

頭頸部癌の放射線治療を10例以上経験する

頭頸部癌の化学療法を10例以上経験する

経験すべき検査

聴覚検査：純音聴力検査10例以上、語音聴力検査10例以上、ティンパノメトリー10例以上、自記オージオメトリー10例以上、耳音響放射検査10例以上

平衡機能検査：頭位および頭位変換眼振検査10例以上、温度眼振検査10例以上、視運動性眼振検査と視標追跡検査10例以上、重心動揺検査10例

耳管機能検査5例以上

鼻アレルギー検査（鼻汁細胞診、皮膚テスト、誘発テスト）5例以上

鼻咽腔・喉頭内視鏡検査10例以上、

ストロボスコーピー検査10例以上

嗅覚検査（静脈性嗅覚検査）3例以上

研修内容

専攻医は病棟の主治医として、入院患者の管理を行う。

側頭骨ラボ（福岡大学病院に出向、月一回 19:00-21:30）

側頭骨の wet bone を用い、顕微鏡下に削開し、側頭骨解剖の理解を深め、側頭骨手術の基本手技を学ぶ。

外来症例カンファレンス（月曜日、火曜日、木曜日、金曜日 17:00-18:00）

病棟症例カンファレンス（火曜日 16:00-16:30）

手術症例カンファレンス（水曜日 16:30-17:30）

放射線カンファレンス（火曜日 16:30-17:00）

嚥下・音声カンファレンス（水曜日 16:30-17:00）

抄読会（福岡大学病院に出向、火曜日 18:00-18:30）

院内で行われている、医療倫理、医療安全、感染対策の講習会は必ず受講する。

日耳鼻専門医制度委員会の外部評価を受ける。

なお、本プログラムは日耳鼻が定めた医療設備基準をすべて満たしている。